



写真2: 実習生と考えた授業の板書の例

るわけではないという現実もあります。これらの設備は必ずしも万能ではなく、功罪があることを我々教員は理解して、自分の授業の状況に合わせて利用していくのが賢明だと感じています。

新しい授業方法の模索と伝統的な指導方法

さて、上記のような問題を含めて考えた時、授業全てを電子黒板で行わず、必要な部分で電子黒板を用いるのが妥当であるというのが、現在の私の考えです。また私の担当教科の国語の場合、高等学校では、現代文、古典（古文・漢文）と科目が分かれるので、科目の特性に合わせた設備の利用の仕方が求められると思

共に歩むことの不思議と喜び

先ほども少し触れましたが、この文章を書いている時期（5月下旬から6月初旬）は教育実習の時期と重なっています。

います。現在私は高校1年の古典を担当しています。古典の授業で電子黒板を用いると、話の内容を生徒に映像的な形で理解させやすいと教材研究をしていて気づきました。これは私一人で思いついたのではなく、現在担当している教育実習生と一緒に授業を作っていた時に分かったことです。電子黒板で写す内容に加え、これまで私が授業で用いていた漢文の本文を長い紙に書いて貼って板書を作成すると、本文と漢文の世界観が結び付きやすいということにも気づきました（写真2）。この内容を実践してみると、生徒の反応や理解度を確認しながら、授業内容をより良いものにしていくと考えると、授業内容に目を向けていると、伝統的な指導方法に目が行かなくなってしまうがちです。しかし、基礎知識を定着させるには、音読の反復（写真3）などの伝統的な指導方法が有益なもので、生徒のこれまでの理解度や感想から理解できるので、新しいものを取り入れながらも、伝統的な指導方法の持つ力を軽視しない姿勢が大切だと私は感じています。



写真3: 生徒と大きな声で古文の活用表を読む

先ほどの漢文の授業を自分の見ている実習生と共に作っている際、同じ時期に実習に来ていた実習生が何名か生徒役で授業の練習に参加して、様々な意見を出してくれました。実はそれらの実習生は（私の担当している実習生を含め全て）私が以前、授業を持ち、学校から送り出した生徒だったのです。自分がかつて授業をした生徒とより良い授業は何かについて考え、授業を作っていく、そんなある意味不思議な場面でしたが、なぜか非常に温かく幸せな感覚をおぼえました。教える仕事をするこの喜びは無数にありますが、このような感覚が私をこの仕事に釘付けにする理由の一つなのだと思感しています。

学校教育の現場から



宇野 新之介 SHINNOSUKE UNO



文教大学附属中学高等学校 教諭 国語

1983年 愛知県豊田市生まれ
2006年 明治大学文学部文学科日本文学専攻卒業
2006年 淑徳巣鴨中学高等学校兼任講師
2008年 明治大学大学院文学研究科日本文学専攻博士前期課程修了
2008年 文教大学附属中学高等学校教諭
2016年 現職（現在 国語科主任・生徒部副部長）
文教大学附属中学高等学校HP <https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/ghsn/>



写真1: 電子黒板は開くと黒板として利用できる

電子黒板で変化する授業の方法

明治大学文学部を卒業して、大学院進学と共に教員としての生活が始まり、今年で教員生活11年目となりました。2年間、兼任講師と大学院生という二足の草鞋の生活を経て、大学院の博士前期課程修了と共に現在の勤務先である、文教大学附属中学高等学校に勤務させていただくこととなりました。今年で同校に勤務して9年目になります。文教大学附属中学高等学校は東京都品川区にある大学付属の中高一貫の私立学校で、人間愛の校訓のもと、現在は進学強化のための環境整備をソフト面、ハード面で進めている学校です。

文教大学附属高等学校は、新校舎の竣工に伴い、全ての教室にパソコンとプロジェクターが設置され、電子黒板を用い

た授業が可能になっていきます。また、教室によっては、無線LANの設備があり、そこではタブレットを使用した授業が可能になっています。私が教員として働き始めた11年前は、このような設備はごく一部の教室に存在したものの、それほど一般的ではありませんでした。上記のような設備があれば、映像資料の提示、パワーポイントなどの資料を提示しながらの授業展開が行いやすくなります。これらの設備を使いこなすことができるようになれば、授業の幅が広がることは間違いないです。

しかし、電子黒板は写すことができるものの汎用性が高まりますが、全面が電子黒板ならチョークが使えなくなり、現在の本校のようにスライド式で中央が電子黒板、電子黒板を両端に寄せると、黒板になる場合（写真1）、電子黒板文字情報を伝えようとすると、多くの画面切り替えが必要になります。また、電子黒板は見続けると黒板より目が疲労しやすいという生徒の声も聞かれます。そして、これらの設備によって、授業の幅が広がったことがすぐに生徒の興味を引くことや、生徒の理解の深まりに直結す